

容器包装の3R推進のための自主行動計画 2007年フォローアップ報告

2007年12月

3R推進団体連絡会

ガラスびんリサイクル促進協議会
PETボトルリサイクル推進協議会
紙製容器包装リサイクル推進協議会
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
スチール缶リサイクル協会
アルミ缶リサイクル協会
飲料用紙容器リサイクル協議会
段ボールリサイクル協議会

事業者による3R推進の2006年度実績概要

- リデュース： 2010年目標に向け、着実にリデュースが進んでいます。
- リユース： リターナブルシステムの調査研究を開始しました。
- リサイクル： リサイクル率・回収率は目標に向け着実に向上しています。

主体間の連携に資する取り組み

- 八団体共同の取り組みの展開：
 - ・独自企画の連携イベント開催：フォーラム、セミナー、3Rリーダー交流会
 - ・展示会への共同出展、その他ホームページのリンク化、共通ポスターを作成
- 共通テーマ（普及啓発と調査研究）に基づき各団体の取り組みを展開

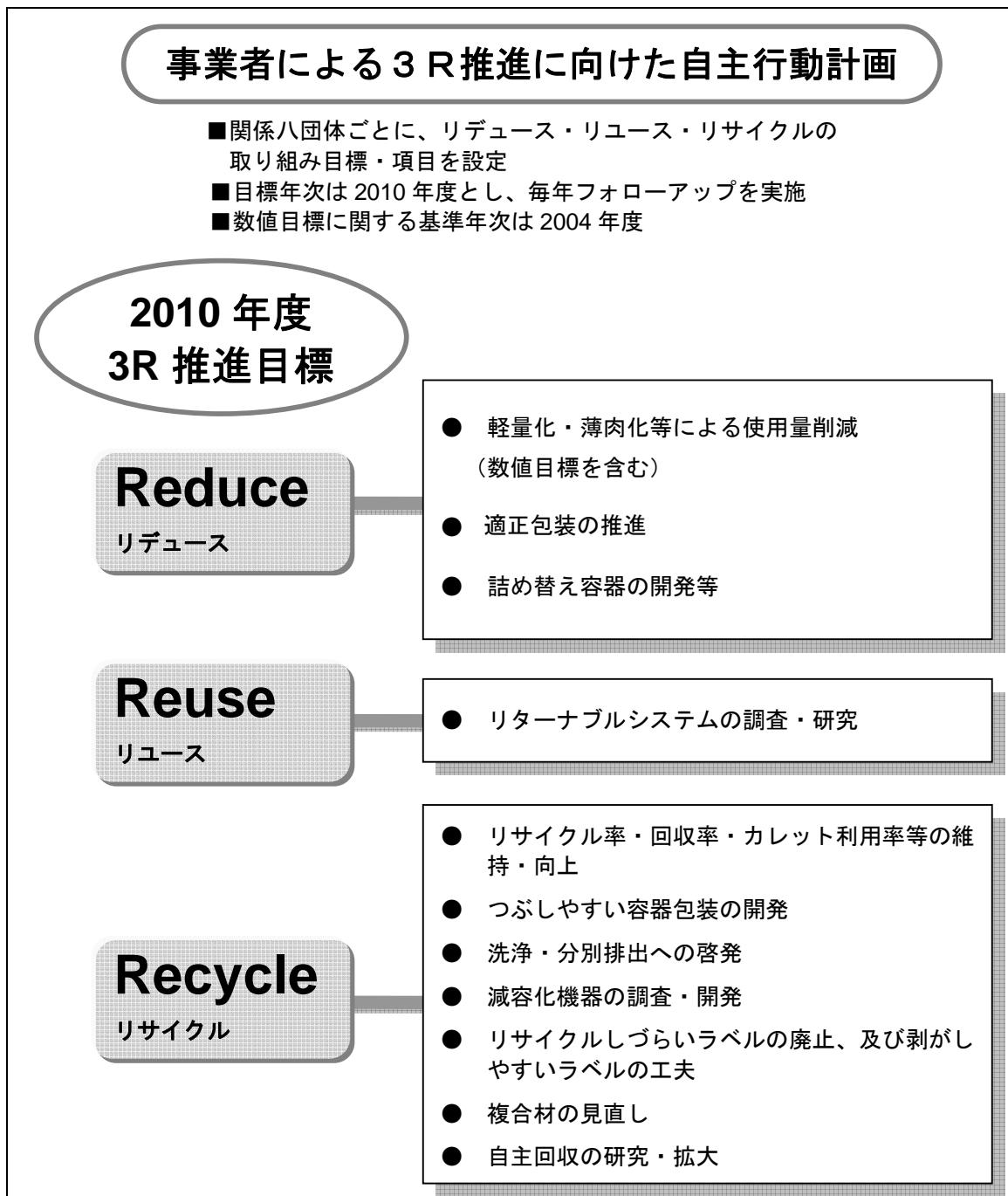
目 次

はじめに	1
1. 事業者による 3R 推進の 2006 年度実績概要	3
1.1 リデュース	3
■軽量化・薄肉化等による使用量削減（数値目標）	3
■適正包装の推進／詰め替え容器の開発等	3
1.2 リユース	4
1.3 リサイクル	4
■リサイクル率・回収率・カレット利用率等の維持・向上（数値目標）	4
■事業者の取り組み	5
1.4 その他識別表示等の推進	5
2. 主体間の連携に資する取り組みの実績概要	6
2.1 関係八団体共同の取り組み	6
2.2 共通のテーマに基づく各団体の取り組み	9
3. 今後の取組み	12
団体別フォローアップ報告	13
ガラスびんリサイクル促進協議会	14
PET ボトルリサイクル推進協議会	18
紙製容器包装リサイクル推進協議会	22
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会	26
スチール缶リサイクル協会	30
アルミ缶リサイクル協会	34
飲料用紙容器リサイクル協議会	38
段ボールリサイクル協議会	42

はじめに

容器包装に係るリサイクル八団体で構成される「3R 推進団体連絡会」(以下、「本連絡会」という。)は、平成 18 年 3 月 28 日に「容器包装の 3R 推進のための自主行動計画」(以下、「自主行動計画」という。)を公表し、各事業者の自主的な取り組みによる容器包装の 3R 推進、及び主体間の連携に資する取り組みの推進を表明しました。

自主行動計画は 2010 年度を目標年次とし、下図のとおり「事業者による 3R 推進に向けた自主行動計画」、及び「主体間の連携に資する取り組み」を 2 本の柱としています。本フォローアップは、自主行動計画の初年度にあたる 2006 年度の取り組み結果をまとめたものです。



主体間の連携に資するための行動計画

■消費者に対する普及啓発活動や、各種調査・研究活動への参画・実施を通じ、消費者・自治体・国等との連携に資する取り組みを展開

関係八団体共同の取り組み

容器包装廃棄物の3R推進・普及啓発のため、

- フォーラムの開催
- セミナーの開催
- 各団体ホームページのリンク化・共通ページの作成等による、情報提供の拡充
- エコプロダクツ展への共同出展

各団体が取り組む共通のテーマ

■情報提供・普及活動

- (各団体の既存の取り組みの活用も含む)
- ・環境展等の展示会への出展協力及び充実
 - ・3R推進・普及啓発のための自治体・NPO・学校等主催のイベントへの協賛と協力
 - ・3R推進・普及啓発のための自治体・NPO等の研究会への参加と協力
 - ・3R推進・普及啓発のための共同ポスター等の作成

■調査・研究

- ・分別収集・選別保管の高度化・効率化等の研究会への協力
- ・分別収集効率化等のモデル実験への協力
- ・リターナブルびんのモデル実験の実施
- ・店頭回収・集団回収の高度化及び品質向上化等の研究会への協力
- ・消費者意識調査の実施

1. 事業者による 3R 推進の 2006 年度実績概要

事業活動における容器包装の 3R（リデュース・リユース・リサイクル）推進については、2004 年度を基準年次、2010 年度を目標年次として、関係八団体ごとに数値目標・取り組み目標等を立てています。2006 年度取り組み実績の概要は以下のとおりです。計画及び実績の詳細については、各団体の発表資料をご参照ください。

1.1 リデュース

2010 年目標に向け、着実にリデュースを推進しています。

リデュースは地球資源の保護の観点から優先的に取り組むべき事項として、循環型社会形成推進基本法にも掲げられており、本連絡会でも容器包装の軽量化・薄肉化や適正化等に取り組んでいます。

■軽量化・薄肉化等による使用量削減（数値目標）

リデュースの数値目標は、各容器の特性に合わせた指標を採用しています。表 1 に見るとおり、多くの素材で着実にリデュースを推進しています。

なお、軽量化や薄肉化を進めるに当たっては、容器包装に本来求められる機能、すなわち「安全・安心」のための品質の保持、運搬時の内容保護などの機能を損なわないようにすることが求められます。さらに、トータルのエネルギー使用量や地球温暖化ガスの増加が伴わないよう、配慮する必要があります。これらの課題を乗り越えるための技術開発、設備投資も含め、各団体とも 2010 年度目標に向けた着実な取り組みを進めていく所存です。

表 1 リデュースに関する 2006 年度実績（2004 年度比）

素材	2010 年度目標（2004 年度比）	2006 年度実績
ガラスびん	1 本あたりの重量を 1.5%軽量化する。	1 本あたり平均重量 2.4%減 軽量化重量は約 3,000 トン
PET ボトル	主な容器サイズ・用途ごとに 1 本あたりの重量を 3 %軽量化する。	主な容器サイズ・用途 15 種の内 9 種で 0.2 ~8.0%軽量化
紙製容器包装	総量で 2 %削減する。	総量で変化無し
プラスチック製容器包装	2004 年度実績比 3 %削減する。	①事例として把握した削減量 1,339 トン ②原単位改善効果の換算値 4,900 トン (詳細は 27 ページ参照)
スチール缶	2 %軽量化する。	1 缶あたり平均重量 1.0%軽量化
アルミ缶	1 缶あたり平均重量で 1 %軽量化する。	1 缶あたり平均重量 0.7%軽量化
飲料用紙パック	1 %軽量化する。	総量で変化無し
段ボール	1 m ² あたりの重量を 1 %軽量化する。	1 m ² あたり 0.6%軽量化

■適正包装の推進／詰め替え容器の開発等

リデュースのための包装の適正化、詰め替え容器の開発等も各企業により進められています。その数値的な効果は把握できておりませんが、例えばプラスチック製容器包装では、ボトルキャ

ップ、ラベル、ヨーグルトカップ等の軽量化、洗剤容器のコンパクト化、菓子類のフィルムの薄肉化、等々の取り組みを進めています。また、紙製容器包装リサイクル推進協議会では、商品包装を調査し、リデュースに繋がるヒントを推進協議会会員に報告、啓発を行っています。

1.2 リユース

リターナブルシステムの調査研究を開始しました。

リターナブルびんの需要は、容器包装リサイクル法施行以前より減少しており、普及に向けては、消費者の意識喚起や新たなルート構築などが求められます。

ガラスびんリサイクル促進協議会においては、環境省「リターナブルびん利用促進モデル事業」、環境省「モデル市町村のリターナブルびん分別収集効果・効率性検証事業」及び経済産業省「地域省エネ型リユース促進事業—リターナブルびん宅配システムの構築」の委託事業を実施しました。また、PETボトルリサイクル推進協議会においては、リターナブルPETボトル分科会を立ち上げ、リターナブルPETボトルの衛生性、安全性に関する調査を進めているところです。

表2 リユースに関する2006年度実績

ガラスびん	国の委託事業として、リユースモデル事業を実施
PETボトル	欧米での実態調査、安全性に関する調査検討を実施

1.3 リサイクル

リサイクル率・回収率は目標に向け着実に向上しています。

■リサイクル率・回収率・カレット利用率等の維持・向上(数値目標)

リサイクル率・回収率の2006年度実績は表3に示すとおりです。リサイクルに関する指標は、素材により回収率等の分子・分母の定義が異なっていますが、各容器とも確実に向上しています。これは、分別排出を行う消費者、分別収集を行う自治体の皆さんのご協力のたまものであると考えます。

表3 リサイクル率・回収率に関する2006年度実績

素材	指標	2010年度目標	2006年度実績
ガラスびん	カレット利用率	91%	94.5%
PETボトル	回収率	75%以上	66.3%
紙製容器包装	回収率	20%	15.2%
プラスチック製容器包装	収集率	75%以上 (初年度に設定)	54.0%
スチール缶	リサイクル率	85%以上	88.1%
アルミ缶	リサイクル率	85%以上	90.9%
飲料用紙パック	回収率	50%以上	37.4%
段ボール	回収率	90%以上	98.1%

■リサイクル推進のための事業者の取り組み

事業者においては、リサイクル性の向上のための技術開発や各種の普及・啓発活動、および自主回収の拡大・研究活動を展開しました。主な事例を下表に示します。詳細は各団体資料をご参照ください。

表4 リサイクル推進のための事業者の取組事例

項目	取組事例
リサイクル性の向上	<p>つぶしやすい容器包装の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 会員団体の各企業に要請して特許、実用新案及び新聞、雑誌への公表記事等に関する調査を行い、6件の開発があった。(PETボトル) 段ボール業界としてたたみ易い段ボールの具体例を調査し、ホームページ掲載に向けたデータ整理を行った。(段ボール) <p>減容化可能容器、洗い易い形状の研究・開発等</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たにユニバーサルデザインを考慮した減容化容器の開発・検討を継続中。(プラスチック製容器包装) <p>リサイクルしづらいラベルの廃止、はがしやすいラベルの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> アルミ箔ラベルを使用しない等ガラスびんの3Rを推進するための自主設計ガイドラインを設定し、びんメーカー、主要ボトラー団体に協力要請を行った。(ガラスびん) <p>複合素材の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 複合素材については、複合フィルムの構成、レトルトパウチフィルムの基材・構成等について取り組んでいる。(プラスチック製容器包装) <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> PETボトルの自主設計ガイドライン遵守を目的にガイドライン分科会にて、着色ボトルなどの調査を行い、問題のあった企業にはその遵守を要請し、是正を図った。(PETボトル)
洗浄・分別排出等への普及啓発	⇒9ページの「各団体の情報提供・普及活動」をご参照ください。
自主回収の研究・拡大	<ul style="list-style-type: none"> 小売酒売店で酒パックを回収するエコ酒屋の取組みが進められており、「酒パックリサイクル促進協議会」やNPOの活動を支援。(紙製容器包装) リデュース、リサイクルの推進と効率的な分別回収のあり方を自治体と連携・協働して進める視点から、2つの自治体と実証実験の計画を進めている。(プラスチック製容器包装) 集団回収の調査・研究を平成17年度より継続的に実施。(スチール缶) アルミ缶回収拠点業者との意見交換会を開催。アルミ缶回収優秀校53校、回収協力者65個人・団体、優秀回収拠点2社を表彰。(アルミ缶) 「回収ボックス」拠点の拡大(2007年2月に1万ヵ所を突破)(飲料用紙容器)

1.4 その他識別表示等の推進

その他各団体においては、自主設計ガイドラインの策定・運用による環境配慮設計の推進、容器包装への識別表示の実施率の向上などを展開しています。詳細は各団体資料をご参照ください。

2. 主体間の連携に資する取り組みの実績概要

2.1 関係八団体共同の取り組み

容器包装リサイクル法改正の趣旨を踏まえ消費者・行政といった「主体間の連携」を進めることが必要との認識に基づき、本連絡会では事業者としての自主行動計画推進と並行して、各種取り組みを推進してまいりました。下表が 2006 年度の主な実績です（一部今年度事業も含む）。詳細については次ページの参考 1 をご参照ください。

表 5 主体間連携のための関係八団体共同の取り組み実績

フォーラムの開催	フォーラムを通じた各主体の意見交換を促進
・ 2006 年度 :『容器包装リサイクルフォーラム in 横浜』 (2006 年 8/29-30)	
・ 2007 年度 :『容器包装 3 R 推進フォーラム in 神戸』 (2007 年 9/19-20)	
セミナーの開催	消費者・自治体・事業者のそれぞれの主体が共に啓発を行う場を提供
・ 2006 年度 :『みんなが主役！共に行動するための 3R セミナー』 (2007 年 2/28 東京都北区)	
・ 2007 年度第 1 回 :『みんなが主役！共に行動するための 3R セミナー』 (2007 年 10/19 北九州市)	
・ 2007 年度第 2 回 :『みんなが主役！共に行動するための 3R セミナー』 (2008 年 2/18 川崎市を予定)	
3R リーダー交流会の開催	消費者リーダーとのネットワークの構築
・ 2007 年度 :4 回の交流会を計画 (2007 年 7/31、9/7、11/30 に実施、以降 1/17 予定)	
展示会への共同出展	八団体としての共同出展による啓発事業の展開
・ エコプロダクト展への出展 (2006 年 12/14-16、2007 年 12/13-15 東京ビックサイト)	
・ 3 R 活動推進フォーラム全国大会への出展 (2006 年 10/19-21 名古屋市、2007 年 10/17-19 北九州市)	
ホームページのリンク化	各団体ホームページのリンク化の実施
共通ポスター作成	3 R 推進ポスターの作成を実施

フォーラムの開催

3R推進団体連絡会の「主体間の連携に資する取り組み」の一環として、自治体担当者の方を主な対象とするフォーラムを開催しました。このフォーラムでは、容器包装の改正を経て、容器包装3Rと分別収集の先進的な取り組み事例の学習、それに係わる情報交換・議論等のプログラムを通じ、消費者・自治体・事業者がどのような連携の形をめざしたらよいのかを共に模索するものです。

● 2006年度フォーラム in 横浜(2006年8月29、30日)

テーマ「消費者・自治体との共同による容器包装のリサイクルのよりよい未来をめざして」のもと横浜市で2006年8月29、30日に初めてのフォーラムを開催しました。自治体、消費者および事業者252名の来場者があり盛況でした。1日目は、郡篤教授(同志社大)による基調講演のほか、連絡会を構成する8団体の自主行動計画の説明、4つの分科会での自治体の方々や消費者との意見交換がありました。



2006年度フォーラムin横浜風景

2日目は、横浜市の分別収集場所・資源センターなどの見学会を実施し、視察と意見交換を行いました。



フォーラムin横浜での資源化センター見学風景

● 2007年度フォーラム in 神戸(2007年9月19、20日)

テーマ「多様な連携と協働による社会的効率の高いシステムを考える」のもと神戸市で2007年9月19、20日に2007年度のフォーラムを開催しました。自治体、消費者および事業者214名の来場者があり盛況でした。

1日目は、環境省リサイクル対策部西村室長の挨拶および経済産業省リサイクル推進課安藤課長の講演を挟んで、地元神戸大学の石川教授の基調講演等がありました。



2007年度フォーラムin神戸風景

午後には、①リデュースへの取り組み、②容器包装のリユース、③分別収集のあり方、④容器包装の多様な回収システムのあり方、⑤3R推進のための市民参加手法の5つの分科会を開催し、それぞれにて熱心な議論が行われました。



フォーラムin神戸での分科会風景

フォーラム2日目午前中は、神戸市北区での容器包装ステーション・その他プラ分別モデル地区の視察と神戸市資源リサイクルセンターの見学および視察内容における質疑応答を行い、分別収集や資源化に対する情報交換と議論とが熱心になされました。また、午後にはオプショナルツアーで、新日本製鐵広畠製鐵所の見学を実施しました。

セミナーの開催

容器包装に関する自治体の取組み、市民の取組み、事業者の取組み等3Rへの取組みの現実を知ること、地域での3R活動をするにあたっての課題解決、自治体や事業者等様々な主体と共によりよい取組みにつなげていくためのきっかけづくりをすることを目指してセミナーを開催しています。

● 2006年度3Rセミナー(2007年2月28日)

テーマ「みんなが主役！共に行動するための3Rセミナー」として、東京都北区で2006年度のセミナーを開催しました。



2006年度セミナー風景(東京都北区 北トピア)

市民および自治体関係者等93名の参加があり、織助教

授(関東学院大)の基調講演とその後の勉強会を開催しました。

● 2007年度第1回3Rセミナー(2007年10月19日)

2007年度の第1回目の3Rセミナーは、北九州市にて開催された環境見本市「エコテクノ2007」の「3R推進全国大会」でのセミナーブースにて、2007年10月19日に開催し、約100名の方々に参加いただきました。

テーマ「みんなが主役！共に行動するための3Rセミナー」として、地元北九州市立大の松本亨准教授の基調講演、北九州市の取組み事例紹介、市民団体として江口氏によるエフコーポ生協の取組み事例紹介および事業者の取組み事例紹介があり、その後各主体の協働をテーマとしたディスカッションを行いました。



2007年度第1回セミナー(北九州市 エコテクノ会場)

3Rリーダー交流会

2007年度より消費者・事業者のネットワーク構築の場として交流会を実施しています。本年度は年4回の交流会の開催を予定しており、3回実施しました。そこでは消費者(10名)および事業者(8名)がそれぞれの立場からの情報提供、意見交換を行い、容器包装の3Rを推進するために必要とされる情報の表現方法や発進手法についての検討を行います。

本年度交流会での協働の成果をまとめ、次年度以降に社会への情報発進につなげて発展させる所存です。

展示会への出展

● エコプロダクツ2006への出展

日本最大の環境イベントであるエコプロダクツ2006に初めて3R推進団体連絡会を構成する八団体が共同出展の形で参加しました。



エコプロダクツ2006共同出展ブース

各団体とも各々の容器の優れた特性とリサイクル促進を含む3R推進のPRに努めるとともに、環境学習に訪れる子供たちに役立つ展示を心がけたことで、共同ブースの各コーナーとも大盛況でした。エコプロダクツ2006への来場者数は3日間合計約153千人で、2005年に比べ12.5千人増となりました。

● 3R推進全国大会への出展

2006年10月19日～21日に第1回3R推進全国大会が環境省、愛知県、名古屋市、3R活動フォーラムの主催にて名古屋市で開催されました。3R推進団体連絡会は、そこに共同出展し、当連絡会の活動および各団体の取り組みを広報しました。

第2回3R推進全国大会は、環境省、福岡県、北九州市、3R活動フォーラムの主催にて、2007年10月17～19日に「エコテクノ2007」との共催にて開かれました。当連絡会は第1回同様ブース出展を行いました。

各団体ホームページのリンク化

3R推進団体連絡会を構成する八団体は、連絡会のニュースや活動を幅広く伝えるために、各団体のホームページをリンク化しています。各団体のホームページのアドレスは以下の通りです。

ガラスびんリサイクル促進協議会：

<http://www.glass-recycle-as.gr.jp>

P E Tボトルリサイクル推進協議会：

<http://www.petbottle-rec.gr.jp>

紙製容器包装リサイクル推進協議会：

<http://www.kami-suisinkyo.org>

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会：

<http://www.pprc.gr.jp>

スチール缶リサイクル協会：<http://www.steelcan.jp>

アルミ缶リサイクル協会：<http://www.alumi-can.or.jp>

飲料用紙容器リサイクル協議会：

<http://www.yokankyo.jp/lnKami/>

段ボールリサイクル協議会：<http://www.danrikyo.jp>

ポスターの作成

連絡会としての共通ポスターを作製し、各団体を通じて自治体や消費者団体に配布しました。



2.2 共通のテーマに基づく各団体の取り組み

上記の「共同の取り組み」に加え、本自主行動計画では「①各種情報提供や普及活動の推進」「②調査研究活動」を主体間の連携に資する共通テーマとして掲げ、各団体にて取り組むことを促しています。2006年度においては、消費者・自治体との意見交換会、児童・生徒を対象とした環境学習への支援、リターナブルシステムの研究や自治体分別実態の実態調査など、多様な取り組みが各団体にて展開されました。主な取り組み内容は以下の参考2をご参照ください。

(参考2) 各団体の情報提供・普及活動／調査・研究活動の例

情報提供・普及活動

- ガラスびん3R早わかりムービーの作成
◇ガラスびんリサイクル促進協議会では、ガラスびんの3R早わかりムービー(DVD)「ガラスびん3R作戦 ペンギン南極へ帰る」を作成し、配布しました。ホームページでも公開中です。



ガラスびん3R早わかりムービー

● 啓発DVDの作成・配布

- ◇PETボトルリサイクル推進協議会では、啓発DVD「知ってほしいペットボトルのこと」を作成し、配布しました。この動画は、推進協議会のホームページでも配信しています。



DVD「知ってほしいペットボトルのこと」

●自治体との意見交換会を実施

- ◇プラスチック容器包装リサイクル推進協議会では、自治体との意見交換会を実施しました。



自治体との意見交換会

● 小学生向け小冊子を作成

- ◇スチール缶リサイクル協会では、小学生向けリサイクル推進啓発用小冊子「リサイクルといえばスチール缶」を15万部作成、全国の小学校約2万3千校へ配布し環境学習に活用していただきました。また年間約10万人の製鉄所見学者等へも配布し、3R推進の普及啓発を実施しました。



冊子「リサイクルといえばスチール缶」

● アルミ缶回収の優秀校及び協力者の表彰

- ◇アルミ缶リサイクル協会では2006年度、アルミ缶回収の優秀校として53校、協力者として65の個人・団体、優秀拠点として2社を表彰しました。この内5件は、2007年10月に3R推進協議会か

ら3R推進功労者として、同協議会の会長賞を受賞しました。



3R推進協議会の会長賞受賞風景

● 地域会議、リサイクル講習会、出前授業

◇飲料用紙容器リサイクル協議会では、地域住民・自治体・学校関係者・回収業者による意見交換の場としてリサイクル促進地域会議を3回、リサイクル講習会を6ヵ所7回、小学校の総合学習を活用した出前授業を1回実施しました。



リサイクル講習会（上）・地域会議（下）

● 各種イベントにおける広報活動等

◇段ボールリサイクル協議会では、以下のような広報活動を展開しました。

- ・日本製紙連合会主催「環境講演会」(2006.5)
- ・(財)古紙再生促進センター主催「ペーパーリサイクルフェア」(2006年9月、10月)
- ・古紙再生促進センター主催「紙リサイクルセミナー」(2006.10)
- ・その他広報紙等への活動紹介など：
(日本製紙連合会発刊「古紙パンフレット」、(財)古紙再生促進センター発刊「紙リサイクルハンドブック」など)



ペーパーリサイクルフェア

調査・研究

● リチナブルびん利用促進モデル事業

◇ガラスびんリサイクル促進協議会では、茅ヶ崎市の酒販組合と連携しリチナブルびん利用促進・宅配システム構築のモデル事業、モデル市町村のリチナブルびん分別収集効果・効率性検証事業を行いました(環境省、経済産業省委託事業)。



茅ヶ崎市におけるリユースモデル事業

● 欧州技術調査を実施

◇PETボトルリサイクル推進協議会では、2007年3月欧洲技術調査団を欧洲5カ国(ベルギー、フランス、スイス、イギリス)に派遣し、「リチナブルPETボトルの実態」、「先進事例としてのスイスの高度なリサイクル状況」、「自動回収機やリサイクル技術」などの調査を実施しました。



ベルギーの研究所（ILSI）との意見交換

●組成分析などの現場調査を実施

◇紙製容器包装リサイクル推進協議会では、自治体の分別回収の実状について9市のヒアリング調査と、3市の組成分析調査を実施しました。



紙製容器包装の組成分析調査写真

◇プラスチック製容器包装リサイクル推進協議会では、自治体の分別収集したプラスチック製容器包装の組成分析調査を行っています。



プラスチック製容器包装の組成分析調査写真

●集団回収の現状調査・普及拡大

◇スチール缶リサイクル協会では、平成17年より、全国22箇所(北海道～四国)について、集団回収の現状を継続調査しました。その調査結果を踏まえ、協力していただいた自治体関係者と研究会を開催、また、情報公開のためのフォーラムを開催しました。なお、調査資料は、情報提供のため全国の区市へ配布しました。さらに、調査結果より集団回収が3R推進普及啓発に効果があることが判明したため、主体間連携に資する取り組みとして具体的支援方法についての検討を行いました。(平成19年度より、経済産業省・クリーンジャパンセンター等の後援を得て「集団回収を通じて優れた環境学習に取り組む小学校に対する支援(予算総額1千万円)」を開始しています。)

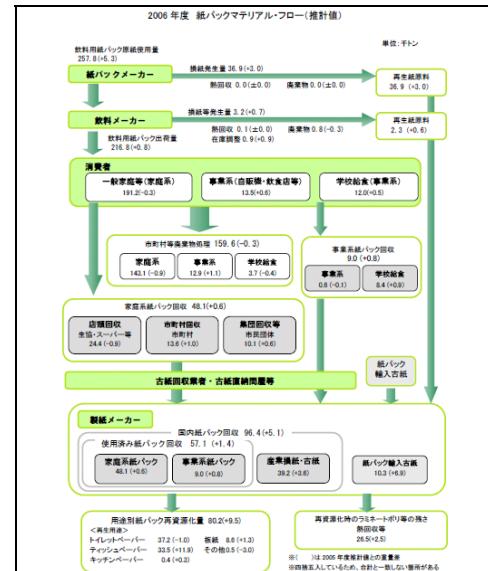


集団回収現状調査風景

●リサイクルフローなどに関する調査

◇アルミ缶リサイクル協会では、リサイクル率に影響するアルミ缶スクラップの海外輸出について、2006年度より調査を開始しました。

◇飲料用紙容器リサイクル協議会では、1995年より独自の調査による飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査を継続し、毎年紙パックの回収率を始め、原紙輸入からリサイクルまでのマテリアルフローの作成、回収業者、再生紙メーカーでの買取り価格調査など、その結果を公表しております。



紙パックマテリアルフロー調査

●3R事例収集やリサイクルマークの調査

◇段ボールリサイクル協議会では、段ボールの3Rに係る事例(面積縮小・軽量化段ボール、畳み易い段ボール)の収集や、家庭から排出される段ボールの家庭への搬入経路別、用途区分別リサイクルマーク表示率の調査(2006年7月～8月)を実施しました。

3. 今後の取組み

各団体による3R自主行動計画の着実な実施

本フォローアップは自主行動計画の初年度に当たりますが、2010年度の目標年次に向け着実な一步が踏み出せたものと考えています。今後ともリデュース・リユース・リサイクルのためのさらなる取り組みを各団体で進めていく所存です。

主体間の連携に資する共同の取り組みをさらに充実すると共に、新たにACによる普及啓発を開始。

主体間の連携に資する取り組みについても、2006年度に引き続きフォーラム・セミナー等を展開すると共に、さらなる普及啓発、連携強化に向けた取り組みを進めていきます。さらに本年11月、AC（公共広告機構）の支援団体にも選定されており、来年以降各種媒体による普及啓発を展開する予定となっています。

今後とも消費者・自治体・国等の関係者の皆様のご指導、ご協力を賜りますようお願いする次第です。